外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）関西支部中学高校授業研究部会・
京都教育大学英語の教え方研究会　主催

２０１７年度　１０月例会のご案内

今回は外国語教育メディア学会(LET)関西支部 2017 年度秋季研究大会の午前のワークショップとして開催いたします。

日　時：　２０１７年１０月１４日（土）１０：２０～１２：００

会　場：　流通科学大学　講義棟Ⅵ（京都教育大学ではありません！）

参加費：　LET 会員無料

非会員当日会費 2,000 円

大学院生 1,000 円（要　学生証）

学部生無料

内　容：

「主体的・対話的で深い学び」につながるリーディング指導

西本有逸（京都教育大学）戸田行彦（滋賀県立守山中学校・高等学校）

キーワード：発問，ペレジヴァーニエ，ミメーシス

1. はじめに

リーディング指導は奥が深く難しい。次期学習指導要領のキーコンセプトである「主体的・対話的で深い学び」につながるよう，ミクロとマクロな視点から考えたい。戸田は発問作成の観点から，西本はペレジヴァーニエとミメーシスという観点から理論的・実践的提案を行う。

2. 発問について

田中・田中(2009)によると発問とは「生徒が主体的に教材に向き合うように，授業目標の達成に向けて計画的に行う教師の働きかけ」であり，田中・島田・紺渡(2011)は発問を「事実発問」「推論発問」「評価発問」の３種類に分類している。また，門田・野呂・氏木(2010)はリーディング指導における発問を考える４つのポイントとして「教材の解釈」「生徒の把握」「目標の設定」「授業の構想」を挙げている。しかし，これらはすべて教師が発問を行うべきであるという暗黙の了解が含まれている。伊東(2008)は発問者に

関して，①教師から生徒へ，②生徒から教師へ，③生徒から生徒への３種類を挙げており，生徒一人一人が教師に対して，あるいは他の生徒に対しても積極的に発問できる雰囲気を作ることも重要であると述べている。また，大下(2014)は推論発問や評価発問の効果についても可能性を述べている。

3. ペレジヴァーニエ（情動的体験）とミメーシス（創造的模倣）について

深い学びとはアクティブラーニングで提唱されるような授業形態に拠るのではなく，対象となる教育内容や教材の価値によって決まるということをまず確認したい。そして，深い学びは強靭な理論を必要とするのだが，最近の人間諸科学のキーワードであるペレジヴァーニエとミメーシスを導入する。ペレジヴァーニエは人間の外に存在する何かと関係し，他方で主体がそれをどのように体験するかが重要となる（ヴィゴツキー）。ミメーシスとはプラトンとアリストテレスに端を発し，「モデルをまねつつ，対象に意味を与え，生気あらしめる創造行為である」（久米 1985）。

4. ワークショップの内容

前半では中学高校で使用されている英文を読み，推論発問と評価発問を作成していただく（事実発問は時間の関係で割愛する）。後半ではペレジヴァーニエに関するテクストとそれを「なぞる」というミメーシスについて考えたい。

参考文献

Cole, M. et al. (2016). Symposium on Perezhivanie. *Mind, Culture, and Activity*, *23*, 271-357.

Fleer, M., Gonzalez Rey, F. & Veresov, N. (2017). *Perezhivanie, Emotions and Subjectivity.* Springer.

伊東治己（2008）．『アウトプット重視の英語授業』　教育出版

門田修平　他（2010）．『英語リーディング指導ハンドブック』　大修館書店

久米博（1985). 準＝物語テクストとしての神話・夢・幻想　「思想」735, 101-110.

大下邦幸（2014）．『意見・考え重視の視点からの英語授業改革』　東京書籍

田中武夫　他（2011）．『推論発問を取り入れた英語リーディング指導』　三省堂

田中武夫・田中知総（2009）．『英語教師のための発問テクニック』　大修館書店

今後の予定：

１１月１２日（日）例会　於）京都教育大学

１２月１０日（日）例会　於）京都教育大学

３月１７・１８日　第２４回中学高校教員のための英語教育セミナー
於）キャンパスプラザ京都